

各種部門のご案内



医療安全推進センター



センター長	ふくだ ひろつぐ 福田 宏嗣
医療安全管理部門 部門長	やないはら ひとし 矢内原 仁
新規医療技術等管理部門 部門長	ちだ まさゆき 千田 雅之



□ 医療安全推進センターについて

獨協医科大学病院では、特定機能病院として高度かつ専門的な医療を提供しています。

2016年6月より、「特定機能病院の承認要件の見直し」（「医療施行規則の一部を改正する省令：2016年厚生労働省110号・6月10日付」厚生労働省）により、特定機能病院における医療安全対策が強化されました。当センターでは、院内の医療安全・推進を目的とした「医療安全管理部門」と、高度かつ専門的な医療を安全に提供することを目的とした「新規医療技術等管理部門」の2部門を設置しました。従来から取り組んできた医療安全対策をより具体的に、部署を超えて組織的な取り組みとして活動しています。

□ 医療安全管理部門

部門長 矢内原 仁

特徴・特色

組織横断的に院内の安全管理を担う部門であり、医療安全管理に関する教職員の意識向上や指導に日々取り組んでおります。また、事故発生時の対応状況の確認や原因究明を行うとともに、問題点を分析し再発防止を立案する等の活動を積極的に行っております。

主な業務内容

1. 医療安全管理委員会、医療事故対策委員会、セーフティマネージャー委員会、RRS委員会、報告書確認対策チーム及びIC委員会の資料、議事録の作成と保管、その他委員会の庶務に関すること。
2. 医療安全対策の推進に関すること。
3. インシデント・アクシデント情報の収集に関すること。
4. 死亡事例の情報収集に関すること。
5. 医療安全管理研修会の開催に関すること。
6. 厚生労働省が推進する医療安全対策ネットワーク事業に関すること。
7. 医療安全対策に係る連絡調整に関すること。
8. 医療安全対策院内広報誌の発行に関すること。
9. その他医療安全対策に関すること。

スタッフ

医療安全管理部門長（医師・学内教授）1名（専従）
専従
医療安全管理者4名（看護師3名、薬剤師1名）、看護師1名、事務4名、参事2名
兼務
医師（学内准教授3名、病院准教授1名、病院講師1名、病院助教1名）、薬剤師1名、臨床工学技士1名、放射線技師1名

□ 新規医療技術等管理部門

部門長 千田 雅之

特徴・特色

獨協医科大学病院では、特定機能病院の医療安全管理部門の体制強化として、2017年3月1日より新規医療技術等管理部門を開設しました。当部門では高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否を決定し、実施後の状況をモニターする部門として、医師・薬剤師・看護師・臨床工学技士等の院内スタッフが協力して、患者さんへ高度な医療を安全に提供できる様に取り組んで参ります。また高難度新規医療技術等の導入プロセスにかかる3つの評価委員会（未承認新規医薬品評価委員会、未承認新規医療機器評価委員会、高難度新規医療技術評価委員会）を設置しております。

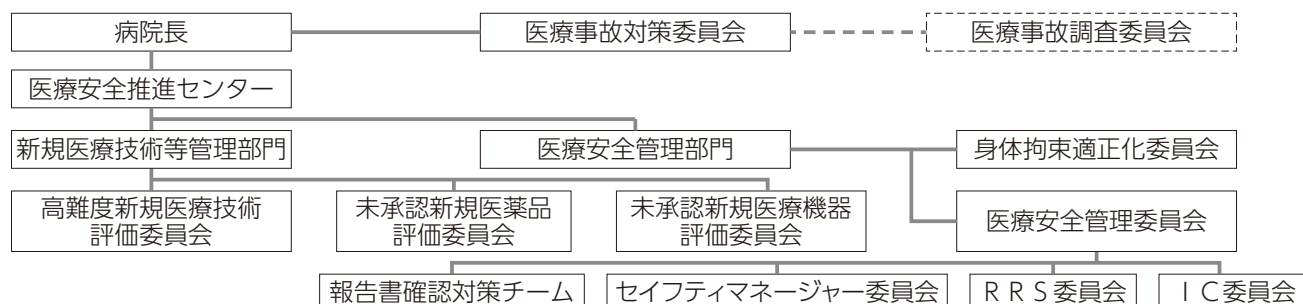
主な業務内容

1. 診療科等の長からの申請の内容を確認するとともに、各評価委員会に対して当該新規医療技術及び未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求めること。
2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該新規医療技術及び未承認新規医薬品等の提供の適否、使用条件等について決定し、その結果について申請を行った診療科等の長に審査結果報告書により報告すること。
3. 新規医療技術及び未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうかに関し定期的に、及び使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合に、診療録等の記録を確認すること。
4. 新規医療技術及び未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたかどうかに関し、申請を行った診療科等の遵守状況の確認を行うこと。
5. 新規医療技術及び未承認新規医薬品等の適否、使用条件等について決定した時及び診療科等の遵守状況を確認した時に、その内容について医療安全推進センター長を介して病院長に報告すること。
6. 評価委員会における審査資料及び議事録並びに申請を行った診療科等の遵守状況の確認記録を審査の日又は確認の日から少なくとも5年間保存すること。
7. 評価委員会に係る庶務に関すること。

スタッフ

新規医療技術管理部門長（医師・教授）1名（兼務）
専従
医療安全管理者1名（看護師1名）、事務4名
兼務
薬剤師1名、医師（学内准教授1名）、臨床工学技士2名、看護師（手術部）1名

医療安全管理体制（組織図）



感染制御センター

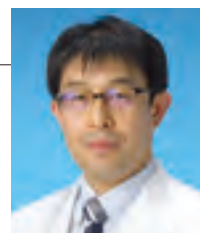


センター長

にほ せいじ
仁保 誠治

副センター長

ふくしま あつひと
福島 篤仁



電話番号 0282-87-2418

□ 診療内容

病院全体の感染対策の中心となる部署として活動し、2018年度から医師、薬剤師を中心に抗菌薬適正使用支援チームを立ち上げ、感染症診療におけるコンサルテーション機能を充実させました。入院、外来を問わず、各職種の専門性を活かし、感染症全般的の相談に随時応じています。(電話：内線3019)

□ 特徴・特色

<院内感染対策>

感染制御センターは、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師など多職種のメンバーで構成されており、各職種の専門性を活かし、医療関連感染の発生状況の把握や、問題点の分析、改善、防止に取り組んでいます。

<抗菌薬適正使用支援チーム>

適切な検査に基づいた、抗菌薬、抗真菌薬の使用方法などを提案しています。治療薬物モニタリング (TDM) については、薬剤部、臨床検査センターとも連携して充実した体制を整えています。

<職員健康対策>

健診センター、医療安全推進センター、労働安全衛生委員会などと協力し、健康管理、労働安全衛生対策にも取り組んでいます。

<地域への貢献>

病院内にとどまらず、所轄の県南健康福祉センター等行政機関および連携する病院と地域の感染症対策の推進にも取り組んでいます。

<教育・研究活動>

先端医療を担う大学病院の役割として、感染症に関わる様々な領域の研究に取り組んでいます。学内では熱帯病寄生虫病学講座、微生物学講座、ゲノム診断・臨床検査医学講座、看護学部、さいたま医療センター感染制御部とも共同研究を行っています。

患者さんに安心して高度な医療を受けて頂くため、当院では感染防止策に特に力を入れており、感染症に強い病院を目指して業務にあたっています。

□ スタッフと専門領域

氏名	職名	専門領域および主な認定資格
ふくしま あつひと 福島 篤仁	副センター長 講師	感染症専門医・指導医、ICD、感染症診療一般、HIV診療、細菌学
ふじさわ りょういち 藤澤 隆一	准教授	ICD、DICT
まえざわ れいか 前澤 玲華	准教授	ICD、総合内科専門医、リウマチ専門医
ふくしまけい たくろう 福島啓太郎	講師	小児の感染症、免疫不全における感染対策(小児科と兼任)、感染症専門医・指導医、抗菌薬適正使用認定医制度指導医、抗菌薬臨床試験指導医、ICD、日本小児感染症学会暫定指導医
なかむら ゆうこ 仲村 祐子	講師	血液疾患での感染症、感染対策(血液・腫瘍内科)、ICD
べつう ひろり 別納 弘法	講師	ICD、日本泌尿器科学会専門医・指導医、抗菌化学療法認定医、泌尿器科診療
うちだ まさとし 内田 雅俊	准教授	日本内科学会認定内科医、日本救急医学会救急科専門医、救急集中治療
やざわ なな 矢澤 那奈	助教	呼吸器内科領域
おおたか ゆみ 大高 由美	助教	日本内科学会認定医、ICD
かとう まさや 加藤 正也	講師	小児科専門医/指導医、アレルギー専門医、小児感染症認定医、NICUにおける感染対策

患者さんに安心して高度な医療を受けて頂くため、当院では感染防止策に特に力を入れており、感染症に強い病院を目指して業務にあたっています。

臨床研究管理センター



センター長	とよだ しのぶ 豊田 茂
臨床研究管理部門 部門長	にほ せいじ 仁保 誠治
治験管理部門 部門長	にほ せいじ 仁保 誠治



電話番号 0282-87-2275

□ 臨床研究管理センターについて

当院では、2017年3月より臨床研究管理センターを開設しました。当センターは、疾病の予防・診断・治療法の確立などを目的とした臨床研究を管理する「臨床研究管理部門」と、新薬の開発や承認申請を目的とした治験を管理する「治験管理部門」の2部門で構成され、臨床研究や治験に参加する患者さんの安全性の確保及び人権の保護、適正な実施のための管理・監督を行っております。

医師・薬剤師・看護師・臨床検査技師等の幅広い職種の院内スタッフが協力し、臨床研究や治験の管理に取り組んでいます。

□ 臨床研究管理部門

当院では、当局が規制する指針や法律等に従い臨床研究を行っております。一般の方や外部有識者を交えた臨床研究審査委員会では、倫理的及び科学的観点から審議が行われます。この委員会は毎月定期的に開催され、新たな臨床研究のみならず、実施中の臨床研究についても審査を行います。

臨床研究管理部門は、当院の各部門で行われている臨床研究を一元管理する部門です。新たに臨床研究を行う場合は、研究計画書や説明・同意文書等をもとに、委員会事務局として必要な手続きを行います。また、患者さんが安心して参加するための相談窓口として質の高い医療の提供に努め、当院における臨床研究が適正に行われるよう管理・監督を行っています。

□ 治験管理部門

当院では、医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令（GCP）に従い、倫理的及び科学的観点から、信頼性のある治験を行っております。一般の方や外部有識者を交えた治験審査委員会では、倫理的及び科学的観点から審議が行われます。この委員会は定期的に開催され、新たな治験のみならず、実施中の治験についても審査を行います。

治験管理部門は、当院の各診療部門で行われている治験を一元管理する部門です。新たに治験を行う場合は、治験実施計画書や説明・同意文書等をもとに、委員会事務局として必要な手続きを行います。また、新しい医薬品や医療機器を開発する臨床試験において、患者さんが安心して参加できるよう治験についての説明や来院時のフォローアップを行い、患者さんの安全と人権の保護を確保する相談窓口として質の高い医療の提供に努め、当院における治験が適正に行われるよう管理・監督を行っています。

□ 患者さんへ

薬や医療機器について

薬や医療機器が、私たちの手元に届くまでには、長い期間と莫大な費用が費やされます。効き目がありそうだからといってすぐに使えるものではありません。効き目や安全かどうかは、患者さんに使っていただいて最終的な評価が行われます。現在、私たちが使っている薬や医療機器は、患者さんをはじめとした多くの方のご協力によってできたものです。

より良い医療を後世に残すためにも、皆さまのご協力をお待ちしております。

参加にあたって

臨床研究や治験に参加するための基準や募集人数は決められており、ご希望いただいても参加見合わせになる場合があります。参加を希望される方、または詳細についてお知りになりたい方は、臨床研究管理センターまでご連絡ください。

担当する医師やCRC（コーディネーター）が、参加を希望される患者さんやご家族に説明し、スケジュール調整も含めてご相談をお受けします。臨床研究や治験に関する質問や心配事は、どのようなことでもかまいませんのでご相談ください。

看護部



部 長	こまつ 小松 ともえ 富恵
副部長	いぬい 乾 ひろみ 寛美
副部長	こやま きよみ 小山喜代美
副部長	こもり 富美子
副部長	てらさき 順子
副部長	じんぼ ちよと 神馬千登勢



電話番号 0282-87-2395

□ 特徴・特色

病院の理念をもとに、
看護部の理念

- 看護倫理の徹底
- 高度で良質な看護の提供
- 看護の専門性の追求
- 地域の特性にあわせた継続看護の充実
- 信頼される看護職員の育成

の5項目を掲げています。

さらに、看護部の求める看護師像として、

1. 看護の専門性を追求できる看護師
2. 高度先進医療に対応できる看護師
3. 安全管理ができる看護師
4. 組織人としての役割遂行ができる看護師
5. 感性豊かな看護師

の5つを目標にしています。それをもとに年度初めに目標を設定し、各部署と個人で、アクションプランを立てて目標に向かって活動しています。

□ 教育体制

『共育』『共に育ち、共に育てる』という教育理念のもと下記に示す教育目標を立案しています。各部署の教育担当者が中心となり、責任をもって新人看護師をサポートし、部署内スタッフ全員で成長を見守るチーム支援型教育です。3病院共通の看護職キャリア開発システムをもとに、教育段階別、役割別に院内教育プログラムを立案し、キャリアアップできるよう支援しています。

□ 教育目標

1. 根拠に基づいた看護実践のための教育
2. 倫理性を踏まえた看護実践のための教育
3. 自己啓発とキャリアアップのための教育
4. 共に育つ教育

□ 看護職員

2025.4.1 現在 1,413名

(有資格者 1,249名 看護補助者 164名) 派遣者含む

専門看護師5名 認定看護師27名 特定看護師38名

□ 看護単位

○一般病棟 25病棟 救命救急センター こども医療センター 精神科 ICU NICU MFICU 内視鏡センター 手術部 超音波センター 化学療法部 放射線部 血液浄化センター 入退院支援センター 外来など全44部署に看護師を配置しています。

○医療・看護支援室では、専門・認定・特定看護師を配置し、専門的・横断的活動を行い質の高いケアをタイムリーに提供しています。

□ 看護提供方式

固定チームナースングを中心に、一部機能別看護も取り入れています。

□ 看護記録

目標達成看護計画を使用しています。疾患別セット症状別セットを用いてアセスメントし記録の充実と効率化につなげています。

□ DX活用推進

患者さんの安全保持とスタッフの業務の効率化につながる機能としてスマートベッドシステムの導入やスマートフォンによる音声入力ができる機能を取り入れ、看護記録時間の削減につなげています。

さらに、標準的な看護手順を確認・習得するためのオンラインツールとしてナースングスキルを導入しており、いつでもどこでも学べる環境を整えています。

□ 各種委員会活動

教育、記録、看護基準、セーフティマネージャー、ICT、栄養サポート (NST)・スキンケア、医療技術取得支援、電子カルテ・クリニカルパス、看護補助者協働推進の9の委員会があり、看護の質の向上に向け、他部門との連携を図りチーム医療にとり組んでいます。

薬剤部



部長 臼井 悟
副部長 篠崎 桂子



電話番号 0282-87-2246

□ 構成人員

薬剤師91名（うちパート1名）、技術員20名（パート14名・出向者6名）、ファーマシーテクニシャン5名から構成されています。薬剤部以外にも薬剤師を配置しており、臨床研究管理センターに4名、感染制御センターに1名、医療安全推進センターに1名勤務しています。

□ 主な業務

薬剤部内では外来調剤、入院調剤（一回量調剤方式）、注射薬供給（個人別一回量払出方式）、薬剤管理指導、入院・外来患者さんの抗がん剤の調製、お薬相談、薬剤鑑別、医薬品情報管理（DIニュース等の発行）、医薬品管理、一般製剤、特殊製剤、無菌製剤、治験薬管理等の業務を行っています。

薬剤部外では手術部、臨床研究管理センター、医療安全推進センター、感染制御センター、入院サポート室、PETセンターに薬剤師を配置して業務を行っています。

□ 特徴・特色

1. 薬学部学生の教育

薬学教育6年制に伴い、2010年度から11週間にわたる薬学生の長期実務実習を受け入れています。2024年度は11名の学生を受け入れました。

2. 病棟薬剤業務

1993年4月から業務を開始し、現在専任の薬剤師29名が26病棟で実施しています。入院中の患者さんの持参薬、服薬歴、禁忌、副作用、アレルギー、相互作用等についてチェックを行っています。

2024年度の実績は、薬剤管理指導件数42,871件でした。

3. 外来化学療法

2004年9月より業務を開始し、現在は外来化学療法室に専任の薬剤師11名（入院化学療法兼任）を配置し抗がん剤の無菌調製、レジメンのチェック、副作用のチェック、服薬指導等を行っています。2024年度は延べ10,634名の患者さんに対して無菌調製を行いました。

4. 入院化学療法

2008年度より、2つの病棟の入院患者さんの化学療法についてレジメンのチェック及び抗がん剤の無菌調製を開始し、2018年7月からは全病棟（全診療科）において休日を含めた通年の抗がん剤調製を行っています。2024年度は延べ8,401名の患者さんに対して無菌調製を行いました。

5. 手術部での業務

2009年度より手術部に薬剤師を派遣し、一般薬はもとより、麻薬・毒薬・向精神薬などの適正使用を求められる医薬品について厳重な管理を行っています。2021年度からは無菌的ivPCAの調製も行っています。薬剤師10名で

チームを編成し、うち1名は専任薬剤師として周術期における薬学的管理を2022年7月から開始するなど、手術部をサポートできるよう業務拡大を図っています。

6. 薬剤師外来

2025年4月より薬剤師外来を開設し、乳腺センターにて毎週木曜日に3名の認定薬剤師が交代で、抗がん剤治療に関する服薬スケジュールや副作用対策、緊急時の対応方法などを、専門性を活かして丁寧に説明しています。プライバシーに配慮するため個室ブースを設けております。

治療開始後は、診察前の待ち時間を活用し、患者さんの体調や服薬状況について問診を行っています。問診で得た情報は医師へフィードバックし、診察に役立てることで、チーム医療によるサポート体制を強化しています。

7. 臨床研究管理センター

2000年4月に治験管理室が設置され、2017年には治験管理部門及び臨床研究管理部門からなる臨床研究管理センターへの組織化を経て現在に至ります。当センターは、治験や臨床研究における倫理性、科学性及び信頼性の確保に努めています。2024年度の新規治験受託件数は27件でした。

8. 医療安全推進センター

2018年4月より医療安全推進センターに薬剤師を専従として1名配属しています。医療安全推進センターでは院内で報告されたインシデントを薬剤師の知見からも分析することで、より質の高い安全な医療の提供に貢献しています。

9. 感染制御センター

2018年4月より感染制御センターに薬剤師を配属し、現在はAST専従1名、ICT専任1名で業務を行っています。感染制御センターではASTやICTの一員として活躍しており、抗菌薬のTDMや使用状況、院内の検出菌、消毒薬の使用量を把握することで、抗菌薬の適正使用、院内の感染制御に貢献しています。

10. 入院サポート室

2019年4月より薬剤師を派遣し、入院する患者さんの術前中止薬を確認することによって、予定された手術の円滑な実施に貢献しています。

11. PETセンター

2005年4月にPETセンターがオープンしました。薬剤師6名でチームを編成し、短寿命放射性薬剤〔¹⁸F〕FDGの合成と品質管理を担当しています。

今後はチーム医療への参加を強化し、今まで以上にチームで活躍できる薬剤師の育成を目指します。また、院外処方箋を発行することで地域の保険薬局との連携も必要となります。保険薬局と連携、交流を深めることで地域医療の発展にも貢献していきます。